

没後30年 木下佳通代

KINOSHITA Kazuyo : A Retrospective

大阪中之島美術館 会期：2024年5月25日(土) – 8月18日(日)

木下佳通代 (1939 – 1994) は神戸を拠点に活躍した、関西の戦後美術を代表する美術家のひとりです。

木下は京都市立美術大学（現 京都市立芸術大学）で学び、神戸市で美術教師として勤めたのち、1960年代末から「存在とは何か」をテーマに作家活動を本格化しました。

活動初期は写真を用いた作品を制作し、若くして評価された木下は関西、東京、海外と活動場所を広げていきます。そして81年にドイツのハイデルベルクで個展を開催し、ヨーロッパでも高く評価されるようになります。

海外での個展後の82年にこれまでの作風から離れ、抽象画を描くようになります。新たな作風で今後の活動も期待されるなか、90年のがん宣告によって木下の活動は変化していきます。

病魔にむしばまれながらも「描きたい、描きたい、時間が欲しい」と制作を続けた木下は94年に55歳の若さで亡くなります。

約30年間の作家活動で制作されたとされる1200点以上の作品は、関西各地の美術館などにコレクションされています。そのため国内で作品を展示されることはありましたが注目される機会は限られていました。2015年に海外の展覧会に出品されたことを契機に、現在海外でも再び注目を浴び始めています。

本展は国内の美術館では初めての個展、そして作家 木下佳通代の過去最大規模の展覧会です。本展では彼女の初期の作品や代表作、そして燃え尽きる命を思わせる絶筆に至る木下の活動を一挙にご紹介します。

知られざる芸術家、その活動の軌跡をたどる

現在でも海外での個展開催は簡単ではないと言われるなか、40年以上前にハイデルベルクでの個展を成功させた芸術家、木下佳通代。しかし94年に55歳の若さで逝去し、その全貌は明らかになっていません。

本展では「存在とは何か」をテーマとした木下の「描くもの、すべて」を紹介し、生涯で1200点以上の作品を制作したとされる木下の軌跡をたどる展覧会となります。



木下佳通代の個展、国内の美術館で初めて開催

木下は30代に第13回現代日本美術展にて兵庫県立近代美術館賞を受賞し、その後も第11回ブルーメール賞 美術部門（服部プロセス株式会社）を受賞するなど、若くして評価されました。しかし海外での個展経験はあるものの生前、国内美術館での個展開催は叶いませんでした。遂に本展をもって、国内美術館での個展が実現します。

各地にある代表作が集結。木下佳通代の決定版の展覧会。

国内各地の美術館で多数所蔵される木下の作品を厳選し、代表作など一堂に展示する過去最大規模の木下の個展です。初期から晩年までの作品120点以上を紹介する、木下佳通代の決定版の展覧会となります。

木下佳通代（きのした・かずよ）



2015年 「来たるべき新しい世界のために：1968年から1979年における日本の写真と美術の実験」展（ヒューストン美術館ほか）に出品されたことで、再び注目を浴び始める。

木下佳通代 1987年頃 アトリエにて

作家略歴	1939年	神戸市長田区生まれ。
	1958年	京都市立美術大学（現 京都市立芸術大学）に入学し黒田重太郎や須田国太郎に師事。
	1962年	大学卒業後、 神戸市立丸山中学校 、 親和学園 などで 美術教師 として勤める。
	1965年ごろ	河口龍夫、奥田善巳らのグループ〈位〉と共に活動する。
	70年代前半	ギャラリー16（京都）、村松画廊（東京）で定期的に個展を開催した。
	1977年	第13回現代日本美術展 兵庫県立近代美術館賞 を受賞。
	1981年	彫刻家・植松奎二の紹介でハイデルベルク・クンストフェライン（ドイツ）で個展を開催。
	1982年	第11回 ブルーメール賞 美術部門 を受賞 突如としてこれまでの作風を捨て、抽象絵画の制作を開始。
	1990年	がんの宣告を受けて闘病生活に入る。 治療法を求めてロサンゼルスを度々訪問。 現地でも制作を行った。
	1994年	神戸にて55歳で没する。

■序章 1960年代前半…在学中から1970年までの作品

1958年に京都市立美術大学（現 京都市立芸術大学）に入学、黒田重太郎・須田国太郎に師事。河口龍夫や奥田善巳に出会い、グループ〈位〉とともに活動した時代までの初期作品を紹介します。



木下佳通代 《題不詳/む80》 制作年不明
Yumiko Chiba Associates
撮影：柳場大

■1章 1970年代～80年代前半の作品

ドローイング、シルクスクリーン、写真、コラージュそしてビデオ

初期より積極的な活動を展開した木下はギャラリー16（京都）、村松画廊（東京）、トアロード画廊（神戸）を中心にほぼ毎年個展を開催します。写真のコラージュや構成、フェルトペンによるドローイングなどが多く発表され、作家として評価された最初の時期。このたび発掘されたビデオ作品も展示します。



作家自身がコンパスで円を描く行為を撮影した写真の上に、同じ直径の円がフェルトペンで描かれている。コンパスで描かれた円は写真のなかで奥行きを持って見えているが、過去の記録である。一方、実際に目の前に存在している円は、紙という物質上に描かれたものである。私たちが何かを「見る」ときの、在り方や状況、認識のかたちを示した作品。

木下佳通代 《76-C》 1976年
大阪中之島美術館蔵

作家の子供のころのいくつかの写真をコラージュした作品。異なる写真でも輪郭と口はきれいにつながり、眉毛等のパーツも違和感なく配置されている。子供の成長をとらえた写真はその時・その一瞬をとらえた思い出であるが、いずれもその写された本人（本作では作家）自身であり、一人の存在の中で「繋がっている」。作家が直接的に「時間」をテーマとした時期の表現である。



木下佳通代 《む36》 1976年
大阪中之島美術館蔵



同じ写真を5枚並べ、一部分だけ色を付けた本作。着色された範囲が下に行くほど多くなり、映画のコマが進むようにも見える作品。同じ写真でも色付けされた部分が異なると、違う意味を持つように見え想像力を掻き立てる。

木下佳通代 《無題》 1975年
個人蔵

■2章 絵画への移行／1982年からの10年

1982年に抽象絵画の制作へ大きく転向。力強いストロークの幅広い筆致や、描いた部分を拭き取るなど、92年までの間に作風は度々変化します。同系統の色の加減算による絵画は、時間が重層するような奥行きを生み出しました。

このたびの調査で明らかになった最大規模の作品も、修復後、本展で初公開となります。



修復後、本展で初公開となる最大規模の作品（幅550cm×高さ250cm）

木下佳通代 《86-CA323》1986年
北川貞大氏蔵（大阪中之島美術館寄託）

■3章 がんの宣告、LAへの旅立ちそして絶筆

描きたい、描きたいのに時間がない。

1990年、がんの告知を受けた木下。治療法を求めてロサンゼルスへ渡り、現地でも制作を続けました。迫りくる死に対峙しながら、カンヴァスから緊張感をも感じさせる作品など作風も変化します。

94年に55歳で亡くなるまで、生涯で1200点以上、82年から絶筆までで絵画だけでも700点以上の作品を制作。絵画作品のシリーズを中心に94年の絶筆までを通して紹介します。



絵画の制作は通常、筆と絵具を用いて描くことと考えられる。しかし木下は描いたものを拭き取ることも、等しく「描くこと」ととらえなおした。具体的にシルエットのわかるような何かが描かれているわけではない。だが、画面のなかに奥行きや空間を感じることができる作品。写真や紙による制作を止め、絵画作品に82年ごろから亡くなるまで再び取り組んだ。「存在とは何か」に向き合い続けた木下の集大成とも呼べる作品群である。

木下佳通代 《LA92-CA681》1992年
大阪中之島美術館蔵



絶筆とされる作品

木下佳通代 《無題（絶筆・未完）》1994年
個人蔵

関連イベント

記念講演

カズさんのことー木下佳通代という芸術家

開催日時：6月22日(土) 14:00～15:30

登壇者：植松奎二(美術家)

講演+上映

再考・再生『ビデオ / 京都 / 1974』

開催日時：7月20日(土) 14:00～15:30予定

登壇者：今井祝雄(美術家)ほか

*いずれも会場：大阪中之島美術館 1階ホール / 定員：150名 / 聴講無料（ただし本展の観覧券（半券可）が必要） / 申込不要

担当学芸員によるギャラリートーク

開催日時：6月1日(土)、6月19日(水)、7月6日(土)、7月17日(水)、8月3日(土)、8月14日(水)

いずれも11:00～12:00

*いずれも会場：大阪中之島美術館 5階展示室 / 定員：30名 / 参加無料（ただし当日入場するための観覧券が必要） / 事前申込制

「没後30年 木下佳通代」展覧会概要

展覧会名	没後30年 木下佳通代
会期	2024年5月25日（土）～8月18日（日） 76日間
休館日	月曜日 *7/15（月・祝）、8/12（月・休）は開館
開場時間	10時～17時（入場は16時30分まで）
観覧料	一般 1600円（1400円） 高大生 1000円（800円） 中学生以下 無料 ※価格はすべて税込
会場	※（ ）内は20名様以上の団体料金 大阪中之島美術館 5階展示室 （〒530-0005 大阪市北区中之島4-3-1）
公式サイト	https://nakka-art.jp/exhibition-post/kinoshita-kazuyo-2024/
問い合わせ先	電話：06-4301-7285 （大阪市総合コールセンター・年中無休 8時～21時）
主催	大阪中之島美術館

チケットの主な販売場所

大阪中之島美術館チケットサイト、ローソンチケット、ローソンおよびミニストップ各店舗（Lコード：51844）